Special edition "Go-Getter"

大局観で挑む

15期ぶりに竜王のタイトルを獲得し、 史上初の永世七冠を達成した棋士・羽生善治さん。 年齢とともに変わったという勝負への臨み方とは。 また、将棋界におけるAI(人工知能)と 人間の関係をどのように考えているのか --- 。

年齢を重ねて変化した

(2018年2月時)をはじめ、将棋界 将棋の取り組み方 きな話題となっている藤井聡太六段 史上最年少で棋戦を制するなど、大

では若手の台頭が著しく、実際、私が

果につながったのだと思っています。 気持ちで臨みました。それが今回の結 挑戦者らしく積極的に挑もうという 戦いになると覚悟していたのですが、 竜王戦では、これまで渡辺棋王に勝て たことがあり 一番(1局の勝負)につき2日間使う ません。それだけ厳しい

いいですね。磋琢磨しながら高め合っていけると

す。もちろんそういう側面は今もあり 力が発揮される」などと言ったもので 広げられる「"ねじり合い"でこそ実 未知な場面で一進一退の攻防が繰り 士の経験や生き様が重視されて ますが、私自身がプロ棋士になった頃 いて、

棋を覚え、中学生でプロデビ 生み出しています。私自身、小学生で将 半の人たちが、最先端の戦術や定跡を かかわらず、10歳代後半から20歳代前がほとんどです。また、段位の高低に 公式戦で対戦する相手も、20~30歳代 したが、歴史ある将棋の世界で、今もこ

確立されました。それから約400年 うして若い棋士が次々と誕生してく れているのを、頼もしく感じています 将棋は江戸時代に今につながる形が 00年間では、後者の方 ドに対

絞れるようになっているからこそ、 局面ばかりにとらわれるのではなく、 重ねるにつれて、将棋へのアプロ 記憶や計算が得意だった若手の頃は、 視するようになってきたのです 流れを読むといった大局観をより重 戦術や方針を決める際に、全体を見て の仕方が変わってきました。部分的な 将棋を指していました。 先まで頭で計算する「読み」を中心 そうして集めたデータを基に、何手も 「読み」の比重が低くなっているとい もある手の中から瞬時に有効な手を して集めたものですが、今はコンピュー もちろん、自分の中に蓄積されて タや経験のおかげで、何百通り

取ることが大切になります。最近の対 体の流れや機微のようなものを感じ のではありません。先を読んで指して 悪い手だから負けるという単純なも もその読み通りに展開しない 将棋は良い手を指したら勝つとか、 あることです。だからこそ、全

手にした永世竜王3度目の挑戦で

歳)を破り、15期ぶりに竜王位を得まし た。その結果、すでに保持していた6つ 昨年12月の竜王戦で渡辺明棋王(33 ル同様、竜王位でも永世の称

思っていました。 次はないかもしれない。今回は私に の竜王位挑戦者となれたのも、7年ぶ 巡ってくるものではなく、実際、3回目 回で3回目です。チャンスはなかなか 号を得て、永世七冠となりました。 の挑戦はいつになるかわかり りのことです。この機会を逃したら、次 いえ、47歳という年齢も考え併せると、 とって最後のチャンスかもしれないと 永世竜王へのチャレンジは、実は今 しかも、対戦相手は渡辺棋王です。 ません。

が活きることもあるので、お互いに切 ない場合も多々あります。そこをブラッ 践に活かせるかというと、そうとは言え 極的に取り入れるようにしています。 チェックし、面白いなと思ったものは積 応すべく、常に若手の対局や棋譜を 異なるものになってしまいます。ですか す。5年10年も経つと戦術はまったくが圧倒的に変化のスピードが速いんで 間と、直近の シュアップさせるためにベテランの経験 ら、私自身もその変化のスピー が経ちましたが、創始からの300年 ただ、若手のアイデアがそのまま実

かつての将棋界は、一人ひとりの棋

重視されるようになり、現在に至ってい プロ棋士になったのかもしれません。 うな将棋から、もっと自然体で向き合 う将棋へと変わっていく節目の時期に、 ます。私はい から、過去のデー したり、体系的に考えるといったことが とはいえ、私が若い頃は棋譜をコピー ー。時代はずいぶんと変わりました。 わば昔から続く「道」のよ タを集めて分析、研究

しかし年齢を



戦では、そう

Special edition "Go-Getter"

大局観で挑む

AIに学ぶがはなく

な持久力が大切になってきます。人間いうのは一種独特で、マラソンのようり続けて、盤面に意識を集中させると を持続させる必要があります。長く対局では何日にもわたって集中 います。何か別のことをしてリラックは、意識して何もしない時間を作って るというのは無理で、対局がないとき ですから、いつまでも集中し続けてい にぼーっとしているんです。若い頃は んな時間も、棋譜が頭によみがえっ

果、なんとなくこんな感じだろうと、 あいまいな判断で次の一手を決める ている時間の方が長いですし、その結

400年続く将棋の歴史であり、これ一人ひとりのこうした積み重ねが、研鑽を積んでいます。今も昔も、棋士 的な判断の精度が上がってきている年齢を重ねることで、そうした感覚 化に適応できなくなってしまう恐れ 経験とのバランスを考えながら、日々 があるからです。私自身そうならない よう、新しいものとこれまでの知識や 験や知識がじゃまをして、状況の変 面、そこにはマイナス面もあります

定跡やセオリーが進化していて、サイ 盤上はテクノロジーの世界です。常に を指し続けることができるAIに、人 けに生産性を考えると、休まずに将棋 ー空間で完結できるのです。それだ

ている研究者にお会いしたことがあ 発想がありますし、AIにはAIにしでも、人間には人間にしかできない間は絶対にかないません。 作れるけど、私は作りません。肉体を を学び、人間なりに理解して吸収して のではなく、AIから発想やアイデア いこうという段階に入っています。 人間対AT かない思考があります。将棋界では今、 以前、似顔絵を描くロボットを作っ した。それは「詩を書くロボット という対立構造で捉える

も隠されているかも

近はそれもありません。 切り替えがうまくなったというか、最

考えられないようなコラボレーシ 進化していますし、ちょっと前までは 参入していて、ものすごいスピードで 士が対戦する電王戦では、私たちが思続けられる人工知能 (AI)と、プロ棋 とはまったく関係ない優秀な方々が ンが起きたりしていて、面白くなって います。将棋ソフトの開発には、将棋 24時間365日、休むことなく考え と思います

将棋は一見、アナログに見えますが

ならではの良さは、意外性や意表を突 対に間違えないと思ってしまいがち こんなことをやっても全然ダメだ」つでも、実現の確率が非常に低いとか 思われているようなことの中から生 が絶対ということはありません。 精度がガクンと落ちるそうです。です ある地点を超えると、その先の評価の でいくものの、水平線効果といっ 的に精度を上げる方向に開発が進ん ですが、それも違います。AIは確率 います。これまでも、新しいことは から将棋において、今後AIが示す手 いて驚きをもたらすことにあると思 将棋に限らず、AIとは異なる人間

う魅力をどれだけ生み出し続けるこ 過信せず、人間だからこそできる方向 まれてきました。人間はAIを恐れず とができるかどうかで に力を入れていくべきです。 これからは将棋界も、AI その真価が問 とは違

の人生のなかで心を動かされて書く ことで、初めて詩は意味を持つからで

きるようになるのでしょうが、AIが歩でAIはとんどん複雑なことがで が問われるようになるでしょう。 それをやる意味があるのか、という まったくその通りで、科学技術の進

私たち人間は、AIがさも万能で絶

4 パーめらん vol.37 i}i-めらい vol.37 3